

浦添商 怒濤追い上げ



2018
東海高校総体

県勢女子初へあと一歩

【東海総体取材班】2018年度全国高校総体体育大会・東海総体は1日、三重県津市のサオリーナでハンドボール女子の決勝を行い、県勢初優勝を狙う浦添商業は、佼成学園女子（東京）に22-25で惜しくも敗退した。浦添商は後半に最大6点差を付けられるも、粘り強いプレーで追い好ゲームを展開。わずかに届かなかったが、個人技、パス回しなど個々がレベルの高

いプレーを見せた。我那覇葵、宮里真帆、伊良部結生が優秀選手に選ばれた。三重県の三重交通Gスポーツの杜鈴鹿庭球場で行ったソフトテニス女子個人では4回戦に臨んだ石橋梨奈・金城佳奈組（名護）は0-4で小松崎・白崎組（東京）に敗れた。三重県宮サニアリーナで総合開会式を行い、各地で本格的に競技が始まった。

（1面に関連）

ハンドボール

（津市産業SC）

▽女子決勝

佼成学園 25 (13) 22 浦添商 (東京) (13) 22

浦添商は2年連続4度目

県勢女子初の栄冠を目指し、決勝で前年覇者の佼成学園女子（東京）に挑んだ浦添商業。相手のペースにのまれた前半から、怒濤ど

との追い上げで盛り返し、逆転まであと一歩に迫ったが、惜しくも念願の優勝を逃した。守備を崩す場面もあり、実力的には勝てない相手ではなかった。橋口明歩主将は「リズムがよい時間帯にもっと自分らに流れを引き寄せるプレーができていたら」と話し、準優勝の達成感と届かなかった悔しさに折り合いが付かない表情だった。

サイドシュートを打たせ

焦点

て速攻につなげることをイメージしたが、出だしから上背のある佼成のミドルシュートに苦しむ。守備ラインを上げたがポストシュートやカットインで失点。橋口の素早い反応でチャージングを何度も誘ったが、攻撃でも流れに乗れずに速攻のシュートもはじかれ、前半は9-13と劣勢のまま

で終えた。玉城晴美監督も「守備の選択が難しかった」と頭を抱えた。

それでも崩れないのが浦商。前半は高めの守備に捕まった距離感を修正すると、我那覇葵を中心にパスアンドランで隙をつくる。



ると、宮里真帆の素早い終盤に底力を発揮して五分

りで試合が終わった。

たいと、かすれた声で語った。橋口は決めるべきシュートを決めていれば、と思えて良かったと仲間たちをたたえた。（嘉陽拓也）

決勝 浦添商業—佼成学園女子 前半、シュートを決める浦添商業の伊良部結生＝1日、三重県のサオリーナ（大城直也撮影）

佼成女子